

2010. 10. 5

No.163

編集 樋口 みな子

E-mail [minginga@agate.plala.or.jp](mailto:minginga@agate.plala.or.jp)  
<http://briefcase.yahoo.co.jp/bc/ginganews150>  
郵便振替「銀河通信」  
02740-7-56535  
(郵送6号分1,000円)



## 野幌から秋の便りです



10.3 乙部岳の黄葉

すっかり秋が深まり、この間までの暑さが遠い日のことのようにですね。大雪山系ではいつもの年より遅い初冠雪が報じられました。皆さまはお元気で過ごしてましたか？急な寒さで風邪が流行っているようです。私は毎週のように山に登っていたので元気です。

山以外でもさまざまなイベントがあり、忙しくて今号も発行が遅れましたことをお詫び致します。毎回同じような事を書いているようで、続ける意義はあるのだろうかとちょっと悩んでいました。いつもの紙面を変えて1~2ページは私を励ましてくれたお便りを紹介します。

「車イス生活の夫は民医連のおかげで20余年生きさせてもらっ

ています。正直、介護はつらいです。きついです。でもネ、ほんの少しの光を見つめて自分を奮い立たせています。その介護の中で私は左肩のけん盤を切りました。80日の入院、リハビリで健人に戻りました。でも風の強い日はしびれます。エアコンも駄目。略。丘珠病院が私を育ててくれたのだからと、若いナースにガンバレと声援をおくっています」とTさん。私にとっても忘れられない患者さんでした。入院当初、検査するのを嫌がり、怒りに満ちた顔が、病気を受容されてからの変化が素晴らしかったです。院内の敷地で行われた運動会では楽しそうな笑顔が忘れられません。丘珠病院で患者に寄り添う医療の原点を教えられました。自宅で介護を続けながらも、心にゆとりを忘れない姿にハッとさせられました。

「11月に72歳になります。肺がん手術をして12年。肺は心配なし。2年前より乳がん。1回目は検査の結果、自然治癒してました。また乳がんになったら、定期的な検査は受けますが治療は受けません。私の治療法は玄米、菜食、運動、コミュニケーションです。放射線も抗がん剤も免疫力を弱めます。治るといふ強い意志と4つの方法が私流です」とFさん。自然保護の活動や、札幌郷土を語る会など多方面で活躍しています。医療を否定はしませんが、Fさんから元気をお裾分けしてもらいました。

「銀河通信が22周年を迎えたことに心からの敬意を表します。印刷して発行する意義は間違いなくあります。僕はこれまでネットで読んだことはありません。ネットを否定するわけではありません。ネットで読むのが自然な世代に読者を広げた意義は大きいと思います。「印刷の意義があるのか」なんて懐疑的にならずに、銀河通信には紙の読者がどんと後ろに控えているという気持ちでいてください。一父が7月3日に亡くなりました6月29日夜に胸が痛いと言え、救急車で入院、5日目の未明に息を引き取りました。86歳でした。12月から富山で父と一緒に暮らしはじめて半年の間は介護の泥沼にはまった、いつまで続



10.3 乙部岳でオオカメノキの実が真っ赤でした。

くぬかるみぞ、と先の見えないという気分で憂鬱でした。半年がすぎて5月ごろから、このまま一緒に暮らしていけるかなと思えるようになった矢先の死でした。父が生きていれば、自分の人間性が確実に深まったと思うと残念です。一定年退職で企業との縁は切れましたが当時はする必要のない自主規制をして情けない思いをしていたので、何ものにもとられる必要がなくなった、これからがジャーナリストとして真価を問われる正念場だと思っています」と広島のSさん。30年来の友人です。身びいきを差し引いても嬉しいメールでした。銀河通信はまだまだ続けるぞと思いを新たにしました。



8.14 快晴の桂月岳

「銀河通信 22周年、御目出度う 御座居ます!。非常に有意義なメールです、。今後の発展期待しております」と台湾の張さん。昨年、台湾訪問の時に台湾の最高峰玉山のお話を伺いました。自然保護に配慮して登山者は1日90人に制限されています。70代半ばですが、毎日のように山歩きして写真の腕もプロ級です。日本語も達者な方です。

「ペンケヌーシ岳に登ったのですね、頂上の標識が懐かしいです。5月1日の時は、つららが横になびいていました。一銀河通信は生きているうちは続けてください。継続は力なりです」と京極さん。道内1500m以上の山、150峰夏冬登頂を成し遂げました。登頂できず何度も通った山もあったに違いありません。目標があるって素敵ですね。京極さんはルートが確立されていない山を頭を働かせて登る過程が楽しいとも語っています。私も少しでも読みやすく、心に残るような通信を書きたいと思います。

「苦難もあったことと思いますが、長きにわたり、継続されてきた本物の底力に敬意を表します。今後、25年、30年と続けられ、読者を楽しませていただきますよう願っています。一7月21日から北海道へ行って昨日戻ってきました。雨が多く、メインの知床岳、ペテガリ岳、そして、ペンケ、チロロ岳も登山するような状況でなく、日高では林道に入り、濁流を見て直ちに登山を中止しました。折りしも糠平岳の遭難もあり、友人を心配させました。台地林道から扇沼山～三川台～トムラウシ山を往復できたのが唯一の成果。花や紅葉の時期がお勧め、できれば、もう一度行きたいコースです。美瑛川の対岸のオプタテシケ山は、長い歩きに疲れた縦走者を拒むように、凜とした美しい姿が指呼の間にあって印象的でした」と加賀の大庭さん。2007年にパンゴン山脈マーン峰6342mに登頂し、その記録が豊富な写真と臨場感あふれる文章で綴られています。



8.6 夕張岳のシオガマガク

「私はいま「井上ひさし没後1周年記念講演会」を準備しています2011年4月23日：教育文化会館 講演は早乙女勝元さんで「憲法と平和と私と一ある作家の体験」に決まりました。これから実行委員会を作り準備します。内容が具体化したら、メール送りますので銀河通信に載せてください」と今野さん。是非聴きたいです。読者にお知らせしますね。

「山に登り、本を読み、映画を観て、8ページの銀河通信作ることは誰でも出来る事ではありません。毎回の事ながらこれだけに書いてま

とめる事は大変な作業です」と甲府市のSさん。

「一昨年民医連を定年退職しました。現在は系列の薬局でパートで働いています。退職後はいろいろやりたいと思っていましたが、時間外の拘束はないものの今だ仕事に追われる毎日です。通信からはいつも刺激をもらい映画、読書の参考に使っています。通信の発行が何ヶ月に1回になっても良いじゃないですか、これからも無理をしないで続けてください。なかなか会えませんが元気ですね」とSさん。かつての職場の上司です。「深夜、台所のテーブルで・・・その光景が目には浮かんできそうです。女性にとって台所は生活の場であり、夜中の台所テーブルは神聖な発想の源でもあるのですね。さてさて、わたしに樋口さんのようなパワーと情熱があるか?・・・考えました」とKさん。「丁寧な充実した内容だと思いつつどのページも釘付けで読んでおりますが、読み終わって、なんかホワッとした気持ちになりあ～がんばっているなあ。元気を頂いております」とNさん。お便りではありませんが、9月11日に300名山を達成した坂口一弘さんからたくさん元気をもらいました。一人歩きの北海道山紀行にあった文章です。『道外の主立った山に登り終えて思う北海道の山の魅力は、「原始性が残り、登山の醍醐味を味わうことができること」「一面に咲き乱れるお花畑の広大さ」「森林限界が低いので、向こうの山より1000m低い山でも、同じくらの高山の雰囲気味わえること」などであろう』と。まだまだ私には未知の山がたくさんあります。集会の準備や会議などで忙しい日々。だからこそ山に登っている時の、苦しいけれど自然の中にどっぷりと浸っている時間のかげがえのなさを実感します。もうそれだけで十分だから、銀河通信は、息が切れたら辞めようかなと考えたこともありました。でも好きな本を読み、映画を観たら、なんとかその感動を伝えたいのです。文才がないために伝えきれないもどかしさではありますが、私はそれらから世界で起きている戦争や貧困や人種差別などさまざまな事を学びました。銀河通信を通して興味を持つきっかけになればと思います。たくさんのお便りに励まされました。ありがとうございます!

## 原始の山、知床岳



8.22 知床沼で

8月20日（金）札幌から8時間かかって17:00羅臼に到着。実に走行500km。遠いなあ。羅臼北浜のフィールドセンターに立ち寄り、熊から安全を守るためにフードロッカーを借り、北浜番屋に集合しました。しばらくして北見からリーダーのMさんも到着。にぎやかな夕食になりました。

8月21日（土）共同装備はリーダーのMさんが用意したテント、札幌のSさんのテント、ツエルト、3日分の食料等、全員で分担して相泊の駐車場を8:40出発。海岸線を2時間歩く。そこから観音岩への取り付きの崖にたじろぎました。何せ、大きなザック。リーダーはロープを出し、慎重に登ります。なんとか全員クリアし観音岩着。11:30 昼食としました。

小雨もやみ、漁の安全を祈願する観音さまがいくつも高い岩の上や、平らな岩に並んでいて、心和みました。国後や秀麗な爺々岳が海に浮かんで見えました。

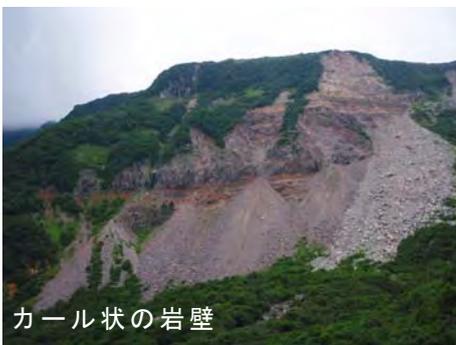
この日は青沼でテントを張る予定。ウナキベツ川の橋をわたり、ロープに頼りながら急斜面に取り付けました。踏み跡はいくつもあり、私たちはウナキベツ川本流沿いに歩いていたつもりが、登ったことのある函館のKさんが、この川は本流じゃないぞと。また来た道に戻り、地図とGPSで確認してウナキベツ川に出ました。たくさんの踏み跡がありいずれに進むべきか何度も確認。1時間のロスでした。途中、熊

の大きな足跡あり緊張！川から離れ、なだらかな道を辿っていくとスレート平がみえ、小さな川の先に青沼がありました。15:35着。テントを張りこの日の登山を終えました。乾杯のビールが体中にしみわたるくらい美味しかったです。

8月22日（月）3時半起床。なんとか天気が持ちそうで安堵。出発は4時半の予定が5時に。ここから知床岳を12時間で往復する予定です。荷を軽くしての登山ですが、途中、ビバークも想定してのツエルトの準備もして出発。かなりの急登をあえぎながら進むと、原始の姿をとどめるカール状の岩壁がそびえるように目の前に現れました。大きくて圧巻。崩れ落ちているような急斜面の登りが何度も続



8.21 青沼でテントを張る



カール状の岩壁

き、崩壊地形の縁を慎重に進みました。ポロモイ台地によりやく乗ったのは7:10。ここからは猛烈に厳しいハイマツの藪こぎが待っていました。足元も悪く、岩あり、倒れた切り株あり。ようやく知床沼に。8:23こんな奥深くに大きな沼があるなんて自然の造形に感動しました。ここで大休止としました。

「ここでテントを張れたらいいな」と思いましたが、2005年に知床は世界自然遺産に指定され、知床沼での野営は禁止されています。

1132ピークの取り付きの踏み跡が笹とハイマツに隠れてなかなか分からず苦勞して進みます。ハイマツ漕ぎと足元の岩や倒木などに緊張を強いられながら進むが、登山道よりはるかに時間がかかりました。

1132ピークに出ると強風とガスがひどくなり、10:30撤退としました。頂上11:30を予定していましたが青沼のテント場に戻るには頂上は無理と判断。青沼15:45でした。無事に戻れた安堵感でいっぱい。

8月23日（月）皆、早くから目覚め、ザックの整理などをして少し早い朝食を終えテントを撤収。青沼7:40出発。海岸線に出るとみな安心したのかお茶を飲んだり、海岸線の花を楽しんだりして相泊12:40でした。陽気も良く、海岸線には昆布が敷き詰められ、青い海と船、昆布、漁師が夏の風物詩のようでした。

頂上は踏めませんでした。原始の山を満喫しました。想像以上のハイマツ漕ぎの厳しさと、登山者が迷ってできたたくさんの踏み跡。地元では世界遺産に指定さ



青い空とかもめ



中央 秀麗な爺々岳

れて笹刈りは行わないようですし、今後ますます登りにくい山になるのかも知れません。阿寒に着く頃には激しい雨になり民宿に泊まり、24日早朝に立ち帰宅しました。長距離運転のTさん、お疲れさまでした。

追記：知床岳撤退後、一緒に行った3人の仲間が2週間後に再挑戦し見事に登頂しました。私のGPSは藪こぎ中か休憩の時にザックの天蓋のチャックからこぼれ落ちて3人にも探して頂きましたが見つかっていませんでした。\_ 3 \_

## 360度の展望に感激!夕張岳



9.12 快晴の夕張岳頂上で

今年は2度夕張岳に登りました。8月5日は夕張岳ヒュッテの管理人のお手伝いで。メンバーは4人でしたが、朝8時に前日の管理人さんと交代し朝食を取り、ヒュッテとトイレの掃除、登山口のトイレの掃除を終えると登山客が降りてくるまで何もありません。それぞれに思い思いに過ごしました。私は午睡。本も読まず、まさにぼんやりの時間が気持ちよかったです。この日は天気も悪く数人の登山者のみ。翌日は仲間二人を加えて6人で夕張岳に登りました。今にも雨が落ちそうな天気で眺望は何もなかったです。頂上まで4時間でした。

9月11日はヒュッテでJACのメンバー9人とユウパニコザクラ

の会のメンバーとの交流会があり、コザクラの会の活動をH野さんがスライドで紹介。私も山の自然保護がどこまで進んでいるか話しました。

翌日も快晴です。7～8月前半の雨の多かった山から久しぶりに気持ちのいい山歩き。望岳台からは芦別岳や岨山を望み、頂上ではどの展望、ニペソツ山やウペサンケ山などの大雪山系、日高山脈、札幌近郊の山々も望めました。50年ぶりに登ったN子さんは感激しきり。私も高校生の時に初めて登った原点の山ですが、これほどの眺望は記憶にありません。私たちは山のトイレデーにも参加し、登山者にマナーガイドと、マナー袋を手渡しし啓発活動も行いました。途中で写真家の梅沢俊さん



望岳台からの展望

とお会いしました。夕張岳ではエゾシカの食害で高山植物が危機に瀕しています。吹き通しに電気柵が初めて設置されました。10月に柵は撤去されましたが、効果が注目されます。10月11日Lプラザでエゾシカシンポジウムが開かれますので関心のある方はご参加下さい。

ヒュッテ前ではコザクラの会が用意し

て下さった流しソウメンが美味しかったです。夕張岳ヒュッテを新しく



9.12 吹き通しの電気柵

建設します。募金にもご協力下さい。1口千円。振り込みは02750-6-97634です。

## 雨の山トイレデーはニセイカウシュッペ山

9月5日(日)はニセイカウシュッペ山で山のトイレデーをメンバー5人で行いました。トイレデーは10回目になるそうです。

私もさまざまな山で参加してきましたが昨年の樽前山も雨でした。朝から札幌は曇り空。天気予報は午後から雨でしたが、ニセカウに向かう途中から雨に変わりました。

誰も登っていないのではと思っていたら、駐車場には6台の車あり。スタートから霧と雨で全く眺望が無い中での活動でしたが、登山者やツアーガイドさん、みなさん好意的に関心を持ってマナーガイドやマナー袋を受



写真・仲俣善雄さん

け取ってくれました。登山口にトイレがない山なので、以前は駐車場付近の草むらにはティッシュが散乱していましたが、地元の山岳会が清掃して下さいたのでしょうか?綺麗になっていました。表大雪の展望台ともいえる山で、最近では本州からの登山者も多い山です。マナーを守ってティッシュの持ち帰りで美しい山を楽しみたいですね。

## 快適なパトロール登山ー黒岳～桂月岳

8月14日(土)お盆でしたが、JACの高山植物パトロールも兼ねて黒岳に6人で登りました。久しぶりに晴れたこの日、たくさんの登山者でにぎわっていました。黒岳までは7合目からは1時間。黒岳石室から桂月岳までは15分の近さ。表大雪の山々が雄大です。今、話題の山ガールのカラフルなスタイルがまぶしい。

桂月岳では、揃ってオレンジのTシャツの東北大学ワンゲル部の学生達が1週間かけて大雪縦走中でした。真っ黒に日焼けした青年たちが、90Lの大きなザックを背負い歩く姿、頼もしかったです。





## 日本海が見える山、ヤンカ山と乙部岳

JACのお月見山行で10月2～3日、ヤンカ山と乙部岳に登りました。登山道の下見から時間配分、芋煮のもてなしなど道南地区の会員さんにお世話になりました。

2日晴れ。札幌や、東京など各地と道南地区から25人が熊石に集合し、ヤンカ山登山口を12時半に出発。東側コースから滝の沢コースを一巡しました。ヤンカとはアイヌ語で「海からそそり立つ所」を意味するそうです。小さな山ながら、熊石から見える崖状に切れた山は印象的です。

いきなりの急登に少したじろぎましたがミズナラの林が美しく、どんぐりがたくさん落ちていました。広葉樹のやさしい林が気持ち良かったです。登山道は狭いですが、迷うところはありません。東京からいらしたH賀さんが、形のいいどんぐり指に挟み、熊もびっくりするような指笛を披露すると、仲間も次々と唱和して進みました。まだあまり時間がたっていないと思われる大きな熊の糞が、登山道の真ん中にたくさんありました。展望の乏しい細尾根の樹林を登りきると前ヤンカでした。14:15。冷水岳、白水岳が広がっていました。鋭く屹立した雄鉾岳も見え、迫力ある展望に感激しました。大休止とし、ヤンカ山頂上は14:50。熊よけの鐘を鳴らし記念撮影をして、滝ノ沢コースを下山。このコースはブナ林が多く、ブナの木の間から穏やかな日本海が見えます。厳しい下りでむしろ登りよりも大変でした。最後の急斜面を下ると右手に滑滝が見えホッと安堵。16:35。林道跡の道を辿って登山口に16:50。619mの山とは思えない厳しく変化に富んだ山を満喫しました。



3日曇り。泊まった光林荘を6:30出発。乙部岳登山口を7:15出発で尾根コースを登り、下山は姫待峠まで車道を歩き短縮しました。乙部はアイヌ語でオ・ト・ウン・ペ（河口に沼がある川）の意味です。義経伝説ゆかりの山だそうです。義経は乙部岳を越えて北に向かい落ち延び、静御前が義経を待ちわびた峠を姫待峠、結局会えずに悲嘆にくれて身を投げた川が姫川と乙部の人々が名付けたとのこと。

ブナ林のやさしさに励まされて急斜面をジグを切って登っていきます。前日のヤンカで急斜面の歩きに慣れたせいかわりに苦にはなりません。中腹まで

来るとると見晴らしが良くなり緑と黄色のパッチワークの紅葉が美しい。紅葉は始まったばかりです。最近、笹刈りもされて（R観光が森林管理所に申し入れをして合同で刈ったそうです。）憩岩分岐に10:13。ここで大休止。熱いココアが美味しかったです。ネマガリダケに覆われた山腹の登山道はきれいに笹刈りされて歩きやすかったです。なんとか半日は天気が持ってくれそう。頂上からはうっすらと駒ヶ岳が見えました。雨量観測所のドームが山の風情を壊していて残念。立派な看板のある乙部岳に10:50でした。姫待峠までの管理道路を1時間歩き、12:05登山を終えました。待っていたのはKさんが作ってくれた芋煮でした。里芋、大根、キノコ、牛肉、こんにやく、にんじん、ごぼう、長ネギと具材たっぷり。心も体もあつたまりました。美味しかったです。



2日間雨にも当たらず、道南の山を満喫しました。Uさん、Kさん、道南地区会員の皆さんありがとうございました。



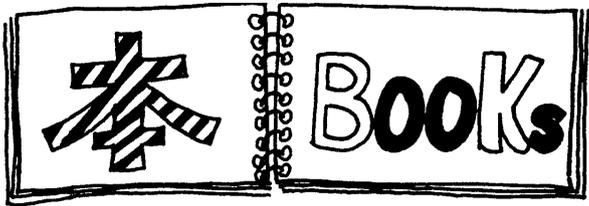
## 絶景の頂上、昆布岳

山名はアイヌ語でトコンポヌプリ（小さなこぶ山）とか、コンポヌプリ（昆布？の山）の説もありはっきりしません。鋭く天を突く姿が登ってみたくなる山のひとつです。私は2度目です。

9月30日（木）に山仲間7人で登りました。登山口を8:50出発。5合目までは変化の乏しい林道



跡の登山道を進む。5合目から少し下って右手にめがね岩が現れます。大きな空洞になっていて眼下に洞爺湖が見えていい眺めです。8合目からは本格的な登りです。9合目からは岩場や崩壊地を乗り越えて行くと頂上はすぐでした。立派な昆布岩の標柱が迎えてくれました。頂上11:55。平日でしたが、3組の登山者がいました。羊蹄山やニセコ連山、洞爺湖や有珠山が眼下に見渡せ、秋の空気は澄んで美味しい。至福のランチタイムでした。頂上を12:45出発し登山口は14:40。素晴らしい登山日和でした。



## エレヌ・ベールの日記

エレヌ・ベール著 飛幡祐規訳  
岩波書店 2800円+税



ナチス・ドイツの占領下でエレヌは日記を付け始めます。ユダヤ系フランス人。ソルボンヌ大学の英文学専攻の大学院生でした。エレヌは自分たちをとりまく歴史的不幸を書き記すことを自らの使命と信じて、魂をこめた日記を愛するジャンに宛てて綴ります。

60年以上たった2008年にフランスで出版されると大きな反響を呼び、20数カ国で翻訳されました。

エレヌは当時21歳。裕福な家庭で育ち、聡明で美しい女性でした。ユダヤ人に対する迫害が強まったパリにとどまり、家族を失ったユダヤ系の子どもの世話をやくまわせる活動を続けました。1944年3月、両親と共に自宅で逮捕され、アウシュビッツ強制収容所に送られます。両親が殺された後、ドイツの別の収容所に移送され、解放される数日前に24歳で非業の死を遂げました。

1942年5月、ナチス・ドイツはユダヤ人に黄色い星を着けるように強制します。6月4日の日記には「身につけまいと決めていた。それが恥辱であり、ドイツの法律への服従の証だと考えていたから」。でも思い直します。「他の人たちがそうするのなら、自分がしないのは卑怯だと思う。もし身につけるなら、それがどういふことか人々によく見えるように、私は常にとてもエレガントで、とても堂々としていたい。私は一番勇氣ある行動をしたい」と記します。6月8日の日記には「ああ神さま、こんなに辛いことだとは思っていなかった。一日中、私はすごく勇敢だった。しゃんと背筋を伸ばして、人々の顔を真っ正面からともしっかり見つめたので、みんな目をそらした。でもなんて辛いんだろう」。黄色い星に具現される残忍さが手に取るように伝わってきました。

序文をノンフィクション「1941年。パリの尋ね人」の著者、パトリック・モディアノが書いています。パリの尋ね人は銀河通信94号（1998年12月発行）で紹介しました。実在したユダヤ系少女の軌跡を辿ったように、エレヌが歩いた道を辿っています。パリのオアシスのような場所で悪が侵入していた事実。パリに行く機会があったら、クロード・ベルナル通りとヴォ克蘭通りを歩いて見たい。

エレヌの恋人ジャンはフランス解放軍に参加するためにパリを去ってしまいます。エレヌは自分が死んだらジャンに渡して欲しいと一家の料理人に日記を託すのです。守るべきものは、自分の魂と記憶なのだ、ユダヤ人迫害の事実を記し始めます。ナチスの残虐さに怒り、キリスト教とユダヤ教について考察し、戦争の愚かさを告発しています。身に迫る危機を感じながら、文学を愛し、哲学的な思索を深めた精神の気高さと意志の強さに感銘を受けました。

家族や恋人と過ごした頃の幸せな写真や、子どもたちの世話をしていた頃の写真が収められていてその頃の日記に「子どもみたいに優しく揺さぶってほしい。小さい子どもたちの世話をしているこの私を、これが済んだら、優しさをいっぱい、いっぱい欲しい」とありエレヌの未来を断ち切られた無念さに胸がいっぱいになりました。是非、多くの読者に読んでもらいたいです。



## ＜島＞に戦争が来た 加藤幸子著 新潮社 1600円+税

東京の南方300キロの太平洋に浮かぶ八丈島が舞台です。戦時中、帝都防衛のため本土から駐屯した兵隊は3万人。強制連行された朝鮮人が働かされていました。

5年前に加藤さんが八丈島を訪れ、戦争に巻き込まれた島の歴史を知りました。本書はあまり知られていない史実をモデルに3代にわたる命のつながりを見つめます。

第1章は太古の昔からの島の成り立ちを鳥の目で描きます。第2章は島民の少女キヨと朝鮮から連行され、強制労働をさせられている青年インスとの恋を描く「戦争が来た」。第3章は戦後64年を経た島を取材する女性カメラマン、有希とインスの孫である島の獣医、明彦との出会いが描かれます。

司令部を置く巨大な地下壕や、飛行場、道路の建設に強制連行された朝鮮人が従事させられたのです。軍隊のために、島民は東京などに強制的に疎開させられます。

小説では疎開船に乗った島民やキヨの母らが、魚雷に当たって船が沈没。命を失います。残されたのはキヨでした。米軍は、島を尻目に本土空襲を続けました。戦争は戦場だけではなく、戦争のために島民は翻弄され、強制連行された朝鮮の人たちは栄養失調やチフスなどで亡くなったことを知りました。

運命に翻弄されながらも結びついて行こうとするキヨとインスの愛がすがすがしい。加藤さんの描く主人公は偏見がなく、まっすぐな女性が多いなとも思います。たくましく生き抜こうとするインスにまっすぐなまなざしを注ぐキヨは加藤さんの分身のようです。1章の森に住む翼をもつ者の目は時空を超えて未来を見通します。インスとキヨの出会いは64年を経てつながっていました。国や民族の壁を壊して結びつく個人が増えていけば、戦争はなくなる力になるとの加藤さんの思いが詰まった小説です。



## ある晴れた日に

加藤周一著 岩波現代文庫 900円+税

加藤周一氏は昨年89歳で亡くなるまで、「言葉と戦車」や「私にとっての20世紀」等、170冊以上の著書を残し、日本を代表する知識人として発言を続けてきました。

小説としての処女作が本書です。戦中、著者は徴兵猶予になり、東京空襲の際には、医師として救援に当たりました。本書は太平洋戦争の日々を主題とし、戦争に非協力を貫く医学生、土屋太郎を主人公に、登場人物それぞれにとっての戦争末期から敗戦までの日々を描き出しています。

戦時下、突然の召集令状であれ、空襲によってであれ、自分の命の危険を常に感じながら青春を過ごした著者の戦争の非人間性を生涯にわたって訴え書いてきた原点がこの小説に凝縮されています。再録された序文で渡辺一夫氏は「銃後における人間性の圧殺に対する抗議証言にもなるという点で忘れがたい」と書いています。

「ある晴れた日に戦争は終わった。1945年8月15日の青空と輝く白い雲を私は複雑な気持ちで眺めたが、その気持ちを物語の形で明らかにしようと試みたのがこの小説である。一私はこの小説を戦争で傷ついた若い日本国民のすべてに捧げたいと思う」。あとがきから。「九条の会」の先頭に立ち、憲法改悪の動きに敢然と反対し、平和憲法のかげがえのなさを語り続けた心の底に脈打つ思いが伝わってきました。

## 映画



### 「パリ20区、僕たちのクラス」

フランス・ローラン・カンテ監督

舞台はパリ20区にある中学校。移民の多い地域で、中国、アルジェリア、マリなどさまざまな民族の生徒たちと教師との授業風景が描かれます。08年、カンヌ映画祭でパルムドールを受賞しました。

教師役は原作者のフランソワ・ベゴニー自身が演じ、24人の生徒は7ヶ月のワークショップを経て選ばれた少年、少女で演技経験はありません。子どもたちの素のままの動きや会話はドキュメンタリーのようなものでした。監督の意図もそこにあったようです。「学校の生き生きした様子を是非描きたかった。混沌として、誰が中心人物かも分からない。それが少しずつ形を持ち、意味をなしてくる。そんな描き方をしたかった」と語っています。

国語教師のフランソワは美しいフランス語を教えようと悪戦苦闘します。雑然として、なかなか授業が始まりません。教師は時には怒り、生徒の反発もありますが、絶対に排除はしません。教師は生徒を信頼し続け、言葉による理解と知性による批判、思考を訴えるのです。教師と生徒が平等にわたりあい、民主主義がどんなふうになされていくのか。こうした学校生活から学ぶのだなと理解できました。

言葉を教える教師が、はずみで言った言葉で、生徒から批難される場面。女子生徒のほうに問題があるのは見ている側には分かるのですが、日本の教育現場だったらどうなるんだろうと考えさせられました。1年を通して、子どもたちも少しずつ変化していきます。授業で何を学んだかと教師が問い、答える生徒たちの成長した笑顔。何も学ばなかったと答える生徒。教育の営みの尊さと厳しさがリアルです。必ずしも理想通りにいなくても、教師と生徒達が創り上げていく授業に感動しました。

夫も中学の理科教師です。実験の準備をして出かけて行きます。「実験上手くいったよ。生徒の反応が良かった」と話すことがあり、授業風景を想像しながら観ました。

### 「闇の列車、光の旅」アメリカ・メキシコ

キャリー・ジョージ・フクナガ監督

移民の少女サイラは父と叔父と共にホンジュラスからメキシコを経てアメリカのニュージャージを目指します。メキシコからは貨物列車に乗るという危険な長旅です。サイラとギャングの少年カスペルとの淡い恋も描かれます。

この作品でデビューしたフクナガ監督は日系アメリカ人。彼は不法移民を仲介するギャングのメンバーに刑務所で取材。実際に貨物列車に乗って一夜を明かす経験をして移民の実態を調査したそうです。移民の人々は何故危険を冒してまでも国境を越えようとするのか？飛行機に乗るゆとりさえもない貧しさから、豊かな国を目指して不法移民にならざるを得ない現実がありました。

サイラとカスペルは国境警備隊の目をかいくぐり、組織の待ち伏せを交わしながら命がけで国境を目指します。絆を深め、サイラとならまっとな人生を送れるのではと希望がとまります。しかし、ギャングの追っ手は迫っていました。サイラだけでも幸せになって欲しい。私もサイラの無事を祈りながら画面を見つめました。サイラのカスペルに寄せる純粋さがまさに闇を照らす光となって、これからの苦難にも立ち向かうだろうと感じました。

まだ世界のあちこちで、移民の過酷な現実があることに胸が痛みました。



### 「アイヌ神謡集」 知里幸恵 銀のしずく記念館

#### 生地の登別市に完成・19日オープン 伝統儀式チセノミで祝う



記念館前で執り行われたチセノミ。右端が横山さん＝9月17日

「アイヌ神謡集」を残し、19歳で早世した知里幸恵の遺品や資料を展示する「知里幸恵 銀のしずく記念館」が生地の登別市に9月19日オープンしました。2500人から寄せられた寄付金約300万円で建設された館内では、両親にあてた手紙や日記、写真など約100点が公開されます。「樋口みな子

#### 日記や両親宛の手紙などを公開

オープンを記念し、2日 池澤夏樹さんが「アイヌ民間にわたってチセノミ（アイヌ民族の伝統儀式）」と講演会、アイヌの伝承歌（ウホボ）の公演などが行われました。17日のチセノミには地元の各道各地、東京、京都などから2000人が出席し、小さな会館は立派の余地もないほど、知里幸恵の姪で知里会理事長の横山むつみさんが「8年がかりで、小さいけれど、立派な記念館が出来て嬉しい。世界に情報発信でき、地域に親しまれる記念館にした」と挨拶しました。

作家で募金委員会代表の

も披露されました。

JR登別駅から徒歩15分、



#### 「扉をたたく人」アメリカ・トム・マッカシー監督

仕事への情熱を失い、心を閉ざして生きている大学教授のウォルター（リチャード・ジェンキンス）が善良で明るい移民のタレクと出会い、ジャンベ（アフリカン・ドラム）のたたき方を教えられて生き方を変えて行く物語です。

他人の事情になど関心がなかったウォルターがジャンベをたたくことで心

躍らせ、新しい自分と新しい世界に目を開かれていきます。その心の動きを深みのある演技で表現していました。かつては能面のようなウォルターが、街頭でジャンベを楽しそうにたたく場面が印象的でした。楽器は人を解放する力があるのですね。

物語は後半、ウォルターの小さな不注意からタルクが警察に拘束され、シリアに強制送還されてしまうという問題にまで発展します。ウォルターはタレクの救出に全力を尽くすのですが・・・。

9.11以降のアメリカの移民への不寛容な現実も描かれます。

大学の講義は単調で、妻には先立たれ、子どもたちとも疎遠だったウォルターが、ジャンベに惹かれる意外性や手でたたくというそれだけのことで世界が広がっていく。奥行きがあって心に響きました。ジャンベの響きはアメリカの現実の扉をもたたいているようです。

#### 「瞳の奥の秘密」

スペイン・アルゼンチン  
ファン・ホセ・カンパネラ監督

裁判所を定年退職したベンハミン（リカルド・ダリン）は25年前の殺人事件の真実を明らかにする小説を書き始めます。かつての上司イレーネ（ソルダ・ビジャミル）を訪ね、闇に葬られた事件と二人の愛を過去と現在を交差させながら描きます。

1974年、ブエノスアイレスで銀行員の妻が殺されました。ベンハミンは事件を追い、真犯人をつきとめるのですが、当時の軍事独裁政権前夜の腐敗した政治状況の中で、犯人は釈放されてしまいます。愛していたイレーネとの別離を決定的にした事件でもあったのです。真理を明らかにすることは過去と向き合うことでもありました。

裁判所が事件を追う展開が興味深かったです。ミステリーとラブロマンスが交差して、事件の結末と二人の恋はどうなるの？とハラハラしながら最後まで飽きずに引っ張ってってくれました。

私はどんな映画も、希望が見えるものが大好きです。ラストの描き方もgood!でした。



購読料をありがとうございます

8.9~10.2 (敬称略)

安川誠二(札幌市) 5000円(カンパ含む) 津村靖代(札幌市) 2000円 小枝正人(東京大田区) 3000円(18号分) 大庭保夫(加賀市) 5000円(カンパ) 沢田正(広島市) 40,000円(カンパ含む) 蓬田三枝子(札幌市) 2000円(カンパ含む) 武田一生(岩見沢市) 3000円(カンパ含む) 西山泰正(江別市) 2000円(カンパ) 東直美(札幌市) 1000円 佐藤民枝(札幌市) 5000円(カンパ含む) 水尾君尾(夕張市) 3000円(18号分) 村上力(釜石市) 3000円(カンパ含む) 岡田秀二(北広島市) 2000円(カンパ) 秦野公彦(安平町) 1000円 芳賀孝郎・淳子(千葉市) 2000円(カンパ)

カンパとあるのはウェブで読み郵送を希望しない読者です。

小野純江(東京・練馬区) 切手1200円分 大久保フヨ(北広島市) 切手2400円分 秦野公彦(安平町) 切手800円分 合計79,000円と切手は印刷と送料に使わせて頂きます。ありがとうございます。

また作家の加藤幸子さんからは著書「島に戦争が来た」を寄贈いただきました。本の紹介をさせて頂きました。読者の方々にも読んで頂けたら嬉しいです。



取り残された3人の兄妹と、日本から呼び寄せたばーちゃん

映画紹介

トイレット toilet

風変わりな題名、荻上直子監督の作品ですが、撮影はカナダ、日本人の出演者はばーちゃん役のみです。長さこそ短く、母が死んで、長男モーリーと次男レイ、学生のリサと日本から呼び寄せられたばーちゃんと猫が残されます。ばーちゃんは英語がしゃべれません。モーリーはパニック障害で引きこもりのピアニスト。プラモデルオタクのレイは実験室で働いていますが、何をやりたいかがみつかりません。兄妹はぶつかったり、すれ違ったりしながら、ばーちゃんの存在で絡まった

本当の家族とは何か

家族の糸がほぐれていくのです。言葉はほとんど交わせないのに、兄妹の英語はばーちゃんにも伝わるのです。ばーちゃんが中心になって家族でギョーザを包むシーン。少しもばーちゃんには押しつけがましさがなく自然に家族の一員になつていたのでした。母が残した古ミシンで、スカート縫い始めるモーリー。「欲求に理由を求めるのは無意味だ」と自分らしく生きはじめ、ロックの選手権に出場を決めるリサ。レイもばーちゃんがトイレ

からでるたびに出す長いたぬいきを探究します。ばーちゃんの存在が、本当の家族とは何かと問うのです。ピアノコンクールに4年ぶりに出場したモーリーがパニックになりかけた時、ばーちゃんが客席から「モーリー、クール！」と大声を発します。初めて出したばーちゃんらしくない張りのある声。小さな映画です。壮大なテーマはないけれど、しみじみと家族っていいなと、心がふわっと温かくなりました。

(樋口みな子)



9.18 オープンした知里幸恵銀のしずく記念館で

編集を終えたところで、日本人のノーベル化学賞のニュースが飛び込みました。お一人は北海道出身です。これをきっかけに理科好きの子どもたちが増えるといいですね。拙い本の紹介ですが、手書きの時代も含めると300冊近くになりそうです。暇な時に入力して本だけを集めた1冊の本にまとめたいたいと思っています。(みな子)

# 市民フォーラムにご参加ください！

北海道高山植物保護ネット 第1回市民フォーラム



## お花畑は、いま・・・

13:00~17:30  
11月 27日(土)  
2010年

■会場 北海道大学地球環境科学研究院 (北10西5) 大講堂 (D201)

**高山植物保護ネットについて**  
あいさつ 小野有五 (北海道大学教授)  
大原 雅 (北海道大学教授)

**講演と各地からの報告**

- ◆北海道のエゾシカの現況と課題について (仮)  
宇野裕之 (道総研環境科学センター)
- ◆礼文・高山植物と共に暮らす  
杉田美野里 (環境NPO礼文島自然情報センター 植物写真家)
- ◆各地からの報告  
(予定) 梅沢 俊、ユウバリコザクラの会、利尻島自然情報センターほか
- ◆若手研究者からの研究紹介  
(予定) 北大大学院生ほか

1998年に発足した「北海道高山植物盗掘防止ネットワーク」(加盟40団体)は、高山帯が抱えるさまざまな課題に取り組むため、今年「北海道高山植物保護ネット」と改称します。盗掘のみならず、オーバーユース問題や外来種・エゾシカの増加、温暖化などにも取り組むネットワークとして、今回は北海道の高山帯が直面している問題について紹介します。

◆申し込み：不要。直接会場へいらしてください。 ◆問い合わせ先 事務局(さっぽろ自然調査館 渡辺・丹羽)  
◆参加費・資料代 500円(予定) 電話:011-892-5306 ファクス:011-892-5318  
◆主催 北海道高山植物保護ネット メール:chosakan@cho.co.jp  
◆後援(予定) 北海道、環境省北海道地方環境事務所、北海道森林管理局



北海道高山植物盗掘防止ネットワーク委員会は今年の春の総会で名称が変わりました。北海道高山植物保護ネットです。代表は小野有五さんから大原雅さんに、事務局長はアポイ岳ファンクラブの水野洋一さんです。私もたったひとりで事務局を担っていましたが、さっぽろ自然調査館の渡辺さんらと一緒に事務局を担うことになりました。

すてきなチラシはさっぽろ自然調査館の作成です。お花の写真は植物写真家の杉田美野里さんです。さまざまな視点からお花畑はいま・・・北海道の高山帯が直面している問題について紹介します。

また地域からの報告では夕張岳でのエゾシカ対策、利尻での登山道補修、梅沢レポートなど、各地の現況・活動についての話題などの紹介を予定しています。

是非たくさんのご参加をお願い致します。



8.14 桂月岳で大雪縦走中の大学生たち



## 吉岡しげ美音楽詩コンサート いのち、咲き・・・

吉岡しげ美さんは1977年より、与謝野晶子、茨木のり子、新川和江など日本の女性詩人の詩に曲をつけ、ピアノの弾き語りを始めました。

私と吉岡しげ美さんとの出会いは時計台ホールでの金子みすゞの詩や知里幸恵のアイヌ神謡集を歌ったコンサートでした。詩が、曲をつけて歌うことによって、より深く心に届き感動しました。なかなかお会いする機会はありませんがそれ以来の

おつきあいです。1年前に大病をされました。コンサート案内チラシにはこうあります。「いのちと向き合い、いのちを感じ、いのちを想う。たくさんのあたたかいいのち、いのちとともに・・・今日も、明日も・・・。愛、ゆたかに、いのち、ゆたかに」。

東京サントリーホールでコンサートを開きます。東京やその周辺にお住まいの読者のみなさま、どうぞ足をお運び下さい。きっと心に響きますよ。

とき：11月16日(火) 開場18:30/開演19:00

会場：サントリーホール

入場料：6,000円 問い合わせ・チケット申し込み

TEL 03-3478-8818 FAX 03-3991-7973  
吉岡しげ美オフィスまで